

《資 料》

第16回タバコか健康か世界会議報告

宮崎恭一

日本禁煙学会 理事・総務委員長

【期 間】 2015年3月17日～21日
 【場 所】 アラブ首長国連邦アブダビ
 【参加者数】 2,000人(2,500人の申し込み)

はじめに

「タバコか健康か世界会議」(World Conference on Tobacco or Health = WCTOH)は、1964年米国公衆衛生局総監ルーサー・テリーの「Smoking and Health」報告を受けて、第1回会議が1967年ニューヨーク市で開催されました(表1参照)。それから約半世紀たって初めて中東のアラブ首長国連邦アブダビで、第16回が3月17日～21日に開催されました。

第1、2回はセブンスデー・アドベンチスト教会(1863年米国で発足したキリスト教グループで、禁酒禁煙を生活習慣として提唱している)が中心となって企画したが、第3回からWHOが企画担当を引き受けました。そののち、アメリカがん協会、UICC(国際がん協会)、ILGTH(国際タバコか健康か連合)などが会議のスポンサーとなり、当初4年ごとに開催されたので、「タバコ会議のオリンピック」と言われました。しかし、タバコの害が科学的に証明され、膨大な論文を処理するために日本開催(1987年)後3年でパース開催となりました。その後、ブエノスアイレス、パリ(この会議でFCTC案が提示されました)と2年ごとに開催されましたが、準備に忙しすぎるとのことで、北京から3年ごとに改訂され、現在に至っています。永久事務局としてThe UNION(国際反結核・肺疾患連合)が中心となって支援しています。

連絡先

〒162-0063
 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201
 一般社団法人 日本禁煙学会 宮崎恭一
 TEL: 03-5360-8233 FAX: 03-5360-6736
 e-mail: k-miyazaki-65@jcom.home.ne.jp
 受付日 2015年4月23日 採用日 2015年5月21日

表1 歴代の開催地

第1回	1967年	ニューヨーク(米国)
第2回	1971年	ロンドン(英国)
第3回	1975年	ニューヨーク(米国)
第4回	1979年	ストックホルム(スウェーデン)
第5回	1983年	ウイニーペグ(カナダ)
第6回	1987年	東京(日本)
第7回	1990年	パース(オーストラリア)
第8回	1992年	ブエノスアイレス(アルゼンチン)
第9回	1994年	パリ(フランス)
第10回	1997年	北京(中国)
第11回	2000年	シカゴ(米国)
第12回	2003年	ヘルシンキ(フィンランド)
第13回	2006年	ワシントンD.C.(米国)
第14回	2009年	ムンバイ(インド)
第15回	2012年	シンガポール
第16回	2015年	アブダビ(アラブ首長国連邦)
第17回	2018年	ケープタウン(南アフリカ)(予定)

余談となりますが、第1回目から参加した日本人は、東京衛生病院名誉院長の林 高春氏です。日本人が多く参加したのは第5回ウイニーペグで、平山 雄先生の講演会場は満杯で立ち見の状態でした。1981年に受動喫煙の論文を発表した平山先生の講義を直接聞きたい海外の研究者が押し掛けたのでした。恥ずかしながら、私は平山論文を読んでいなかったもので、帰国してから平山先生に解説していただいて、初めて世界的な発表であることを実感したのでした。ウイニーペグで日本が指名され、1987年に東京で開催されることになりました。

プレカンファレンス

17日、18日にYouth Conference(青年大会)が、インドのNo More Tobacco in 21st Centuryが指導して、40か国から74名の参加者をもって開催されました。APACTに参加した青年も参加していましたが、ビザが取れなくて、一般の会議も含めて100名ぐらいが参加できませんでした。APACT Youth Action Networkの会長である、バングラディシュのシャイカット氏も参加できなかったのです。

他のプログラムとして、卒後教育のコースが2本、ワークショップが19本計画されていました。私はQUITLINE(禁煙電話相談)のワークショップに参加しました。International Quitlineの事務局をしている米国ワシントン大学の先生方が指導をし、WHOとの協力でオーストラリア、イギリス、中国、アルゼンチンなどの状況が説明されました。政府が資金を出しているケースがほとんどでした。

開会式には文部大臣が出席

17日の夕方、開会式がもたれ、大会長のDr. ウェール・マハミードとスポンサーであるユニオン(国際反結核・肺疾患連合)の会長ジョセ・ルイス・カストロ氏の挨拶で始まりました。

続いてシェイカー・ナハヤン文化・青年・地域発展担当大臣(日本の文部大臣に該当)が挨拶をし、世界禁煙デー賞が、アブダビに授与されました。水タバコの規制が評価されたのです。大会長やWHO中東地区代表の挨拶、Youthカンファレンスの決議案発表と続きました。

レセプションの前にシンポジウム

イギリスやヨーロッパで有名なテレビ・ラジオキャスターであるゼイナブ・バドワイ女史が司会をして、ヨルダン王女のディーナ・マイヤード(ハッサン王がん財団総長)、Dr. アラ・アルワン(WHO中東地



写真1 世界禁煙デー賞を受けるアブダビ文部大臣

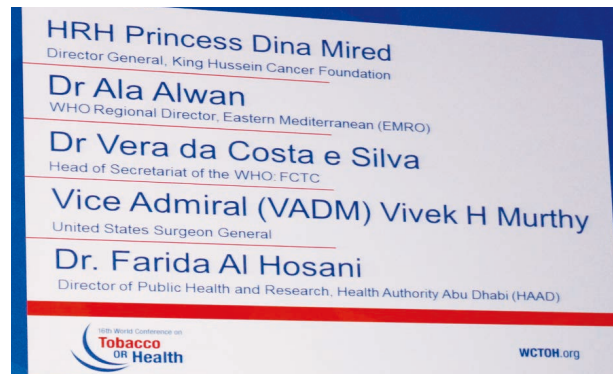


写真2 パネルディスカッションの講師陣



写真3 パネリスト

域代表)、Dr. ベラ・ルーズ・ダコスタ・エシルバ (FCTC事務総長)、Dr. バイス・アドミラル・ビベック・マーティー (米国公衆衛生局総監)、Dr. ファリダ・アル・ホサニ (アブダビ厚生局長) によるシンポジウムがありました。ヨルダン王女は社交的で、青年のカンファレンスにも出席し、中東ではがん対策など大きな働きをしている方です。また、司会者がとてもメリハリのある質問をして、マーティー公衆衛生局総監にした最初の質問は、「どうしてアメリカはFCTCを批准しないのですか」でした。彼は、「話がまだ煮詰まっていない」というような回答を苦し紛れにしていました。

FCTC10周年記念

FCTCが発効して、今年が10年目となり、WHO本部では盛大にお祝いしたようですが、この会議でも特別な枠を設けて、ダコスタ事務総長が今までの流れを解説し、FCTCが各国に与えた影響、特に南米のタバコ対策の展開の素晴らしさが発表されました。ダグラス・ベッチャー氏の発表や、ローレン・ヒューバーFCA (FCTC連盟) 代表のサポート説明もありました。FCTCを受け入れた国は180か国になりました。

特に印象的なイベント

- ・18日のプレナリーはWHO事務総長のマーガレット・チャン氏の演説で始まり、プレーンパッケージや、2025年までに世界の喫煙者を30%にするキャンペーン、ニュージーランドのように2025年以降はタバコを国から締め出すという状況を歓迎することが盛り込まれていました。
- ・会議のテーマとして目立ったのは、プレーンパッケージの訴訟もからむオーストラリアの体験、そしてイギリス、アイルランド、ロシア、フランスなどそれを採用する国が10か国になろうとしていることで、裁判対策などが大きな問題となりました。ブルーバグ財団とゲイツ財団が合同で、タバコ対策促進の国がタバコ産業に訴えられた場合、裁判費用の支援基金を提供するとの発表に、参加者は割れんばかりの拍手をしました。
- ・電子タバコや水タバコなど地域的な問題点も多く議論されました。
- ・受動喫煙問題を中心に、改めて人権(タバコの煙から守る)問題として検討する分科会もありました。



写真4 サンフランシスコ大学のスタントン・グラント博士(熊本の学術総会講師)



写真5 ブルームバーグ賞授与式でのスピーチ

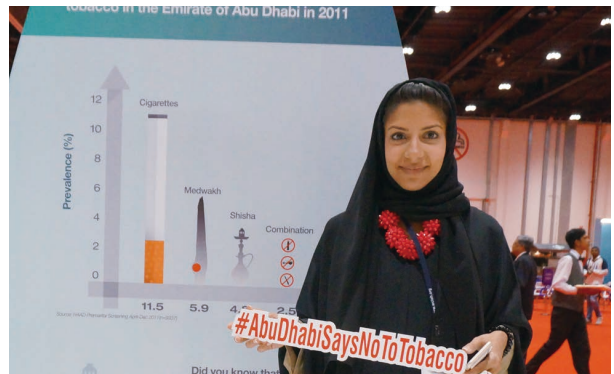


写真6 アブダビのヘルスオーソリティーブース



写真7 水パイプがお土産屋さんで買える

- ・タバコ・アトラス第5版の発行で、世界のタバコ情勢が一目でわかります。
- ・アブダビは静かな豊かな都市で、人々も穏やかな感じでした。今回の世界会議は比較的質素な感じでした。ただ、ヘルスオーソリティーアブダビによると、紙巻きタバコに対する禁煙活動は成功しているが、水タバコは増えている状況であると心配し

ていました。

- ・日本からの参加者は全員日本禁煙学会会員で6名でした。日本政府の担当者の参加はありません。前は、日本政府の取り組み発表でシンポジストとして参加しました。
- ・次回は2018年、南アフリカのケープタウンとなります。



写真8 閉会式でユースカンファレンスのアピール

第16回 World Conference on Tobacco Or Health = WCTOH タバコか健康か世界会議 (アラブ首長国連邦アブダビにて)

2015年3月17日～21日
大会宣言

第16回タバコか健康か世界会議は以下のように確認する

- ・すべてのタバコ製品は害があり、それらは世界的に病気と死の主たる原因であること。
それらは、低・中収入国に対して特に負担を課せることになり、世界規模で無くしていく必要がある。
- ・タバコの流行を止めることは、非感染症疾病の問題を軽減し、青少年を守る意味において、最優先させるべきである。
- ・タバコの害は多角的であり、人類発達上多岐にわたる(環境、貧困、農業、性別など)。
- ・タバコ産業はタバコ流行の根源である。
- ・継続的で常時タバコ税を上げることは、価格を押し上げ手に入りにくくなるので、タバコの消費量が下がり健康増進に繋がり、公衆衛生目的に供するための増収にもなる。
- ・タバコ耕作者はタバコ産業に搾取されているので、タバコ栽培地域に対して、弱小農家がタバコから健康や環境に優しい生計に変更するようにするため、明確な方策が必要である。
- ・FCTCはタバコ対策の有効な道具であるが、各国のレベルでは目的があいまいになってしまう。
- ・この大会は、地方、国レベル、地域レベル、そして世界的なレベルでFCTCの適用が全面的にできる

ように、またタバコ規制が前進するように、共同や協力を呼び掛けたい。

この大会は、世界的なタバコ社会に対してさらなる努力を期待し、もっと広く利害関係者にも働きかけるよう呼び掛ける。また、政府に対しては、2013年WHO総会や2014年FCTCのCOP6で決められたように、FCTCの迅速な適用を通して、2025年までに喫煙率を30%にするよう、真剣に取り組んでもらうよう喚起する。

- ・ この大会は、オーストラリアのタスマニアが提示した、2000年以降に生まれたすべての人を無煙世代とするという斬新的な活動を含む裁判結果(決断)を称賛する。
- ・ この会議の参加者全員は、プレーンパッケージを決断するとか、プレーンパッケージまたはグラフィック警告表示を85%以上にすることなどの導入を検討しようとしているすべての国々、インド、パキスタン、ネパールを含めて、それらを支援することを断言し、タバコ産業からの圧力に対してしっかり立つことを願うものである。

この大会は2018年までに、以下の事項を推奨する

1. FCTCを批准していないすべての国は、批准するか加わること。
2. 40か国は、子どもたちと青年たちを守るために21世紀中にタバコを無くす(NMT21C)という目標を達成するため、活動計画を発展させ、政策・介入を優先させること。
3. 政府がすべての貿易や投資に対してタバコを特別扱いとし、現在交渉中の貿易と投資問題からタバコを除外するよう、各国は支えあうことを促進すること。
4. タバコ規制指標は、提案されている2015年以降継続可能な発展目標に含めるべきであり、タバコを全世界レベルで最優先課題に押し上げるべきである。
5. 少なくとも30か国がプレーンパッケージを採用し、少なくとも100か国がタバコ製品の表面50%以上をカバーする画像警告表示を採用すること。(第11条)
6. 60か国が、非感染性疾患(NCD)の活動計画と国連(UN)発展援助枠組みを含む、国レベルの健康と発展計画に、タバコ規制を適応させたり、含めたりすること。
7. タバコ製品の違法貿易防止に関する議定書の施行されること。
8. すべてのタバコ製品や新製品はタバコ規制局の下で、管理されるべきである。
9. すべての国は、タバコ産業から確実に隔離された、部門壁を乗り越えた、WHOのFCTCの検討・推進システムを発足させ、予算を付けるべきである。(第5-2条、5-3条)
第5条の3項の原則に従って、公衆衛生方針にタバコ産業の邪魔が入らないように統括的な方法を採用するべきである。
10. 少なくとも15か国が今後タバコの値段の70%のタバコ税を実現させる。(第6条)
11. すべての国は、第8条の義務として、公共の場所や職場は禁煙とし、バーやレストランも含めて、喫煙所は設けないことを盛り込んだ、国レベルの法規制を採択すべきである。
12. 50か国は、メンソールやあらゆる香料などの添加物をタバコ製品に使用することを規制または禁止していること。(第9条)
13. 60か国は、あらゆる形態のタバコの宣伝、促進、スポンサー(TAPS)などの全面禁止を採用していること。それには越境販売、インターネット、小売店での販売展示も含まれている。さらに関連して、タバコ製品のプレーンまたは標準化されたパッケージを採用すること。(第13条)
14. 少なくとも50%のFCTC批准国は、第14条のガイダンスに沿って、タバコ依存治療に関する国の基準を作成、出版していること。

(暫定訳：宮崎恭一)